

F-2:産官学金連携

開催日時・会場 9月4日(水曜日) 10:40-12:10 新C403(4階)

研究を育てるということ

本セッションは研究支援職としてこれからキャリアを形成しようと考えている方を対象としている。

参加者の多くは、まず競争的資金に関する情報収集やそれらの教員への提供、公的プロジェクトに関する申請などプレアワード業務を大学に期待され、そのような業務にまず従事しているであろう。各大学が競争に打ち勝っていくためには、研究費はもちろん優秀な人材の確保や設備の充実が不可欠であり、そのために外部資金の獲得に努めることは当然である。プロジェクトの大型化、企業等の参加が前提になっている中、教員だけで対応していくことは困難であり、継続的な競争的資金申請を組織として行っていくためには支援人材が不可欠である。

ただ財源の確保自体が目的化してしまうと、「予算総額」や「期間」などに目を奪われがちになる。これから研究支援職としてのキャリアをスタートする方には資金の獲得それ自体は目的ではなく、研究者(または大学)が「やりたい」、「やらなければならない」事に取り組むための「手段」であることを忘れないでほしい。また大学の社的使命を考えたとき、各プロジェクトは、何らかの対外的な評価指標を上げるのではなく、人類および社会の進歩に寄与するものでなければならない。これらの視点を忘れてしまうと、最終的には教員からの信頼を失うことになる。

URAなどの研究支援職は、学内外の様々な立場の人との協働を通じて、研究を社会発展につなげる(好奇心ベースの研究を昇華させる)役割を担っている。研究支援職は決して研究者のアシスタントではなく、それぞれの置かれている立場とスキルに基づいた「プロフェッショナル」である。今回、話題提供をされるスピーカーは、URAが通常行う業務とは異なる仕事をされているが、「プロフェッショナル」として研究者と違う立場でプロジェクトを担っている。スピーカーとのディスカッションを通じて「自分がいまできることは何か」、「何をすべきか」を考えることが研究支援職としてのキャリアパス形成のコアであること、そして自分が支援しているプロジェクトの5年後、10年後の展開を考え、そして参画できる「喜び」がこの仕事の魅力であると感じてもらえるようなセッションにしたい。

オーガナイザー

原田 隆:東京工業大学 研究・産学連携本部
リサーチ・アドミニストレーター

産業技術総合研究所、筑波大学、福井大学にて産学官連携コーディネーターおよび研究支援活動に従事。平成26年7月、東京工業大学に着任。特任助教としてアントレプレナーシップ教育やインターンシップのコーディネーターなどを担当した後、研究・産学連携本部URA(情報理工学院担当)としてIT創薬や人工知能などICT分野の研究支援および成果の社会実装に努める。

講演者

渡邊文隆: 京都大学 iPS細胞研究所 基金室 室長

青森県育ち。京都大学総合人間学部でブラジル・ウガンダにおけるHIV/エイズ予防の研究を行う傍ら、あしなが学生募金等の寄付募集活動に従事。卒業後、環境ビジネス企業でマーケティング・広報を行うとともに、企業・官庁・NPO向けのマーケティング支援を担当。会社員として働きながらデジタルハリウッド大学大学院を修了。2013年に京都大学iPS細胞研究所へフェアンドレイザー(寄付募集担当者)として着任。

住吉美奈子: サナテックシード株式会社 管理部

2014年筑波大学生命環境科学研究科一貫制博士課程修了。2014年 博士(理学)取得。学生時代は植物細胞壁の研究に従事していたが、卒業を機に研究支援の道に進む。名古屋大学のURA職、筑波大学のゲノム編集技術を利用した育種研究のコーディネーター職を経て、現職。現在はゲノム編集技術による品種改良の社会実装を目指している。